

F-1 農家生活に関する2・3の考察（第2報） —食生活について—

京都女大家政 ○靈山満佐子
亀井 光子

1. 第1報において山村農家における生活の実態調査をした結果、エンゲル係数は平均48.8であった。本報では食生活の内容を把握するべく主として栄養的見地から分析し、家庭生活との関連について2, 3の観点から検討を加えた。

2. 調査対象は前報同様、大分県大野郡野津町の主婦とし、昭和43年1月1日より12月31日までの1年間、質問紙法および聞き取り法による。

3. 摂取栄養量は季節による変化が殆んど見られなかったので1年間を平均し熱量、脂肪、蛋白質および関係比率の算出、日本栄養士会制作栄養カルテによる食事内容のバランスの判定、昭和45年を目標とした栄養基準量との比較を行なった。その結果栄養摂取量は目標を上廻るがV. A. B₁ B₂の値は低かった。食糧構成については目標の米331gに対し平均469gと大きく米偏重の傾向を示した。蛋白質摂取量は平均94.5gであり動蛋比は45.9%、蛋白給源は魚から36.4%、米から32.1%、その他から31.6%であった。蛋白比は最低2.9%、最高4.6%の差をみた。E/T比は平均2.18で第1制限アミノ酸は含硫アミノ酸であった。食事内容に比してエンゲル係数が高いのは一般に消費水準の低いこと、栄養知識の普及による副食費の増大、自給品である米および野菜の消費に対する経済的価値観念の低さに起因するものと考えられ、これらは今後の問題点として残される。